
スポンジ・ボブの楽しい一日

MLマッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スポンジ・ボブの楽しい一日

【Nコード】

N6905K

【作者名】

MLマッキー

【あらすじ】

スポンジ・ボブとその仲間の楽しい一日が、今始まります！
それと、←よりも、おもしろいと思います！！！！
相手が誰であろうとも、、、

プロローグ

＊登場人物紹介＊

・ スポンジ・ボブ カニカーニ（ハンバーガー屋）で働く男の子。
・ パトリック スポンジ・ボブの親友、男の子。
・ イカルド スポンジ・ボブと同じくカニカーニに働いている。

・ サンディ

とても元気なリス？の女の子。

・ カーニさん

カニカーニの店長？の、お金が大好きなカーニ。

＊

僕は「スポンジ・ボブ」今日は、カーニさんのお店でパーティーをするんだ！あぁなんていいことなんだ！！！！

イカルド「おい！スポンジ・ボブさっさと働くんじゃ！早く働け！」
スポンジボブ「そんなにも、イカルドはパーティーに行きたいんだね。」

イカルド「違う！お客から苦情がきとるんじゃ！」

＊

これから、スポンジ・ボブの楽しい一日が、始まります。

僕って幸せ者！

スポンジボブ「カーニさん。僕は準備があるのでもう帰りまあゝす
！！！！」

イカルド「もう、お前さんは帰るのか！とてもいいことじゃないW」

カーニさん「スポンジ・ボブ、6時30分にカニカーニに集合だガニよ。」

スポンジボブ「分かってますよWカーニさん！僕が、忘れるわけないじゃないですか！？」

と言うが、スポンジ・ボブは何万回というほど、忘れるヤツなのだ。スポンジ・ボブは、歩いた。おかしげな、歌をうたっている。

スポンジボブ「ヒーガロー ヒガロ ヒガロ ヒーガロー ラーラーラー」

歌いながら、歩いていくとパイナップルの形をした家に着いた。

今の時間は、6時10分その間にスポンジ・ボブは着替えをする。

何のパーティーかというと、実はスポンジ・ボブの誕生日会だったのだ。

スポンジ・ボブの、着替え（衣装的なW）はというと赤色のきちんとした服だった。

ぴしっ きゅっ スルルルウゝ

赤色の、衣装に着替えるとき変な音がした。（それは、気にせずに、
ゝゝゝ）

＊6時20分＊

スポンジボブ「ああ、、、僕ってカッコイイ☆」

鏡を見ながら、スポンジ・ボブはみとれてしまった、、、

スポンジボブ「ああ、、、僕って幸せ者だ!!!」

パトリックを、誘おう!!!

スポンジ・ボブは、家を出た。

スポンジボブ「そういえば、パトリックを僕のパーティーに呼んでいなかったよ！」

と言い、スポンジ・ボブはパトリックを誘いに行った。

スポンジ・ボブの家はイカルドの家とパトリックの家がとても近くだ。

スポンジボブ「おおーい！パーティーオーイークウー!!! いるかい！」

と大声で言った。とゆうか、叫んだ。

パトリック「何だよ突然!!! 人が寝てるってゆうのに！で何の用だ！スポンジ・ボブ！」

パトリックが怒っている。まあいつものコトだ。

スポンジボブ「パトリック、パーティー行かない？僕の誕生日会なんだ！」

パトリック「ふうん。オイラは、行かないよ！家でオイラは寝るんだから。」

スポンジボブ「行かないの？豪華なごちそうもあるんだよ!？」

パトリック 「えっ！ そうなの！ じゃあオイラはそのパーティーに行くよ。それと、プレゼント付きで」

パトリックに、時間を教えた。教えたら、スポンジ・ボブは、カーニへと、足を急いだ。

これって楽しくないカモ。。。

スポンジ・ボブは、6時30分ぴったりにカニカーニに店に着いた。

スポンジボブ 「カーニさん! きましたよおお♪」

カーニさん 「お来たガニね。じゃあパーティーの始まりだガニ。」

「それじゃ、プレゼントを渡そう!!!!」

みんなが、スポンジ・ボブにプレゼントを渡した。カーニさんだけが、プレゼントを渡していない。

スポンジボブ「カーニさん。僕へのプレゼントは？」

と、スポンジ・ボブが尋ねた。

「えっと、プレゼントは話をしてやるガニ。」

[illegible]

カーニさん 「むかし、むかし、
「ドアたたきの幽霊」という男
がいた。その男は、夜になると、

一人暮らしの人の家にトントントントと、4回ドアをたたいていた。

その、ドアたたきの幽霊に4回ノックされると、あの世につれてい
かれるんだガニ。」

[illegible]

スポンジボブ「ひええ、カーニさんそれってプレゼントですか？こ、怖いです。」

トントントントン

とゆう音がした。

スポンジボブ「キヤヤヤア~~~~~」
と、青ざめていた。。。。

これって楽しくないかも。。。(後書き)

この、第4話は次の話につづきます。
楽しみにしてください。

なんだ!びっくりしたよ。。。 (前書き)

第4話は、第5話とのつづきでした。

なんだ！びっくりしたよ。。。

スポンジボブ「ひっひい、、、た、助けてカーニさん。もしかして、カーニさんの仕業だったの？」

助けてえ、、、イカルド助けてえ、、、」

と、怖がった。しかしこれは、カーニさんでもイカルドでもない、誰の仕業でもないのだ。

カランカラン

と、誰かが入ってきた。

スポンジボブ「キャアアードアたたきの幽霊だあ！」

と、叫んだ。しかしそこにいるのはドアたたきの幽霊でも何でもない。

そこにいたのは、、、

スポンジボブ「パトリック！！！！どうしてこんなところにいるんだい。」

なんと、そこにいたのはパトリックだったのだ。

パトリック「何を言っているんだい。スポンジ・ボブ君が誘ったんじゃないか！」

そういえばそうだ、スポンジ・ボブがパトリックのことを誘っていた。（第3話参照）

スポンジボブ「ああ、そうだった、、、」

カーニさん「それじゃ、パーティーを再開するガニよ。」
といってまたパーティーを始めた。

カーニさんが、プレゼントをあげない理由はお金を使いたくないからだろう。

カーニさんは金好きだから、、、
しょうがない。

カーニさん 「それじゃ、みなさんにカーニバーガーをごちそうするガニ。」

と言い、カーニバーガーを食べ始めた。

なんだ!びっくりしたよ。。。 (後書き)

これで、謎が解けました。

第6話も楽しみにしてください (・?<*)ノノ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6905k/>

スポンジ・ボブの楽しい一日

2010年10月10日20時13分発行